Back Number

本論文は

世界経済評論 2021 年 5/6 月号

(2021 年 5 月発行)

掲載の記事です

世界経済評論 定期購読のご案内

年間購読料
1,320円×6冊=7,920円 ▶ 6,600円 税込

17% 送料無料 OFF

富士山マガジンサービス限定特典
※通巻682号以降
定期購読期間中 デジタル版バックナンバー 読み放題!!

世界経済評論　定期購読

[24時間・年中無休]
0120-223-223

お支払い方法
Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp
雑誌のオンライン書店

超限戦
：21 世紀の「新しい戦争」

聖心女子大学教授　古川 純子

［著者］
　喬良　中国人民解放軍国防大学教授
　王湘穂　北京航空・宇宙航空大学教授
［発行］KADOKAWA，2020 年 1 月刊
［判型］新書，328 ページ
［定価］本体 1200 円＋税

昨今，ハッキングやフェイクニュース，テロが地政学的攻撃の手段として用いられ，その基盤となる技術覇権をめぐって米中の争いは熾烈さを増している。軍事技術と民生技術との境界はぼやけ，無節操とも型無しとも取れる戦法が世界に広がっている。その原典ともいえる本が 2020 年に復刊された。1996 年の台湾海峡危機で米軍と対峙した軍人であり大学教授である 2 人の中国人軍事専門家が，21 世紀の戦争の変化を論じた。この本は 1999 年に初版が中国で，2001 年に邦訳が日本で出版されたが，邦訳初版は古書市場で一時 3 万円の値をつけた。軍事資料や古今の軍事思想を渉猟したこの知的な分析は，米国防総省がただちに英訳し，米海軍大学校も教材にしたほどであり，一読の価値がある。

グローバルなインターネットとコンピュータが前提となる 21 世紀の戦争では，火薬から情報へと兵器体系が移行する。陸・海・空の指揮系統という伝統的軍事思想に縛られていては勝ち目がない。コンピュータ・ウイルスの侵入，ライフ・ラインの遠隔破壊，敵国の為替レートの異常変動，敵国首脳のスキャンダルなど，軍事とは無関係な手段が，兵器として戦法に組み込まれる「非戦争の軍事行動」がその特徴になるという。

具体的には，金融，貿易，資源，経済制裁，経済援助，国際法，国際標準，メディア，イデオロギーなどの非軍事手段が，外交，威嚇，密輸，麻薬，情報，インターネット，心理，技術などの超軍事手段と並んで，伝統的な核，通常兵器，生物・化学兵器，宇宙戦，電子戦，ゲリラ戦，テロ戦などの軍事手段と共に，兵器の列に並ぶ。軍事，超軍事，非軍事の，どの手段をどう組み合わせるかは，戦いの目的と状況に応じて無限に柔軟に考案できる。戦法の特徴と勝敗の趨勢を決めるのは，むしろ非軍事手段である。側面から剣を突きさすこと，古い秩序のルールを破壊することもまた必勝法であるという。物理空間を超えて，インターネット空間，電磁波空間，ナノ空間など，あらゆる場所が戦場となり得る。

「流血の政治」である戦争が今や無人となり流血が減るとはいえ，武力と非武力のすべての手段を投入する「超限戦」で殺傷が止むわけではない。敵を強制して自分の利益を満たし，勝つ側と負ける側が決まるという戦争の本質が変わるわけでもない。

本書が提起する思考の範囲は，経済制裁など経済力を武器に使って地政学的な国益を追求する欧米の Economic Statecraft という概念を超えている。すべての境界と限度を超えた「超限戦」で，戦争がさらに残忍化，激烈化することは想像に難くない。人類は，相互殺戮の果てに消え去るか，戦争を望む人間のマインドに向き合うかの，分水嶺に立っている。

（ふるかわ　じゅんこ）

【日本貿易振興機構 海外調査企画課】